

## ごあいさつ



代表取締役常務執行役員  
社会・環境委員会 委員長  
上野 征夫

## 社会貢献活動30年に当たって

三菱商事の社会貢献活動は、1973年、世界貿易センターでの藤野社長(当時)のスピーチが出発点でした。スピーチの中で藤野社長は、「ソーシャル・コスト」という新しい概念を打ち出しましたが、社員たちはこの新しい概念を違和感なく、自然に受け入れることができました。これは、社内に創業以来の精神である「所期奉公、処事光明、立業貿易」の三綱領の精神が脈々と受け継がれてきていたことの証しにほかならないと思います。三綱領の精神に則って、常に社会との共生という視点で仕事に取り組んできたことで、当時既に、三菱商事には社会に貢献するという素地が出来上がっていたのです。三菱商事では、藤野社長のスピーチを機に社会環境室を設置、これ以降さらに積極的な活動を展開してきました。

しかし、近年、グローバル化の進展などにより、企業の活動領域は飛躍的に広がり、社会に与える影響が格段に大きくなったことから、社会が企業を評価する視線はさらに厳しくなり、企業の社会的責任(CSR)に対する関心がますます高まっています。「企業は社会に何をもたらすために存在するのか」ということが今改めて問い直されてい

るのです。われわれ企業、また企業人は、この命題に対して今まで以上に真剣に向き合っていかなければなりません。特に三菱商事は、世界の多くの国や地域でビジネスを展開し、携わっている分野も多岐にわたることから、今後、CSRを問われる場面はますます増えてくるでしょう。その中で、社会と企業の持続的な相乗発展を実現するために、引き続き積極的に社会貢献活動に取り組んでいきたいと考えています。

また、三菱商事の社会貢献活動の基本は、単にコストを負担するだけでなく、社員自らが自発的に活動に参加することにあります。その活動のひとつである「母と子の自然教室」は30年間続いており、1983年から事務局スタッフに加え社員ボランティアが自主的に運営にかかわるようになりました。その社員の力が「母と子の自然教室」をずっと支え続けているのです。私も昨年、4日間社員ボランティアと共に汗を流し、子どもたちと触れ合うことで「母と子の自然教室」の意義を改めて強く実感しました。

社会貢献活動30年という節目を迎え、今後も広く社会に貢献し、社会と共に成長する企業で在り続けたいと思います。